

現代の

ことば

やすなり
安成

てっそう
哲三



つてしまつ。

政府は、日本の消費税率はヨーロッパ各国に比べ、これでも低いと主張しているようだが、ヨーロッパの消費税は、食料品などの日用必需品に

受けるサービスも充実させてもらいたいケースがある。私は登山が好きだが、国立公園の多くの登山道の荒廃は目を覆うばかりである。お花畑に入らないように設置したはず

山者である。近年は経済的にも余裕のある中高年登山者が圧倒的に多い。登山道整備のための入山料(税)は、当然の受益者負担として理解されるはずである。

消費税が4月1日から5%から8%に引き上げられた。この原稿を書いている時点で施行からまだ1週間もたっていないが、街中を歩いてこの増税がどう現れているか、小売店を中心に調べてみた。もちろん、私は税制や経済の専門家ではない。一介の消費者として、簡単なモニターをしてみただけである。

は、無税か、非常に税率が低く抑えられていることを忘れるべきではない。北欧諸国は一律20%以上であるが、その代わり、医療費・教育費は無料である。貧富、老若にかかわらず、生きるための消費活動に一律に消費税をかける日本

の古道は、数年程度で腐ってしまつが、多くの場合、補修されずそのまま放置されている。朽ちた古道の上は歩けず、登山者はその横を歩いてしまふため、登山道は次第に横に広がり、結局お花畑の破壊が進んでしまふ。

昨年、世界文化遺産となり登山者で超過密状態となった富士山に地元の自治体がよくやく入山料を導入した。富士山の脆い登山道は常に整備しないと危険な状況にある。高い入山料で、登山者が多少減ることは、安全・安心

かかっている。この価格に対し、さらに今回の8%の消費税率をかけるのだから、実質は1・05×1・08=1・134となり、本体価格に対しては10%どころか、すでに13%強の消費課税価格になっている。中には一皿300円

税金を考える

ただ、一方的に小売店の方々を非難できないのが、消費税の問題点である。特に自家製造している食品店などは、購入する材料費にもすでに8%の消費税がかかっているわけだから、もともとの利益を確保しようとしたら、売値を5%から8%の値上げにする

一方で、受益者負担の税制をより徹底して、その代わり登山道の恩恵を受けるのは登山者である。近年は経済的にも余裕のある中高年登山者が圧倒的に多い。登山道整備のための入山料(税)は、当然の受益者負担として理解されるはずである。

数年前に、北アルプスのこのような場所を、たまたま環境省の国立公園担当の友人と歩いたが、なぜ補修しないのかと聞いたところ、単に予算がないからとの答えだった。地球環境学)

(総合地球環境学研究所長・地球環境学)

驚いたことに、消費税をきつちり5%から8%に引き上

ただでは実質的に収入減にな

をより徹底して、その代わり

登山道の恩恵を受けるのは登

地球環境学)